

歴史講座は中止になったけど、魅力を伝えたいコーナー!!

魅力を持った地域の建物! #歴史講座倉吉編

はじめに…今年の初夏に予定していた歴史講座は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止としました。開催することはできませんでしたが、なんとか地域の魅力をお届けしたいと、講師の先生方に相談し、紹介ページを作りました。ぜひ、紙面でお楽しみください。

国登録有形文化財
飛龍閣



建てられた経緯

明治37年4月、皇太子（後の大正天皇）山陰道行啓に伴い、打吹公園内に宿泊所として建てられました。

特徴（文化財登録のポイント）

飛龍閣は鳥取市の仁風閣とは対照的に純和風の建物です。御座所として建てられているため、地面からの床の高さが非常に高く造られています。意匠は質実で、格式高い建築です。

ここを見てほしい!

四方柱の床柱、笹杵の一枚板（床天井）など、上質な材に注目していただきたいです。

普段の見学・利用について

現在、集会施設として活用されています。予約・申請の上、利用可能（有料）。

お問い合わせは倉吉市役所管理計画課（0858-22-8131）まで。

建てられた経緯

昭和27年2月、倉吉町役場が焼失。翌年には倉吉市が発足し、市の拠点である庁舎の建設が急務でした。郷土にゆかりのある岸田日出刀東大教授に相談したのがきっかけで、丹下健三氏との共同設計が進められることになりました。市民ホールなどのパブリックスペースが設けられ、市民に開かれた庁舎建築として設計されています。

特徴（文化財としてのポイント）

設計は世界的に著名な建築家、丹下健三。水平線を強調した外観、吹き抜けなどが採用され、丹下健三の初期の庁舎建築の特徴を表しています。また、柱・梁・庇など、伝統建築の要素を現代建築に取り入れています。

ここを見てほしい!

庁舎西側の市民ホールから見た町並みと背後の山並みは額縁に入った絵画のようで、おすすめのスポットです。



市民ホールから望む町並み

国登録有形文化財
倉吉市庁舎

倉吉市指定有形文化財
旧牧田家住宅
(倉吉淀屋)



外観(右手前—主屋 左奥—付属屋)



付属屋の内部

ここを見てほしい！

付属屋の「近江八景」を表した欄間や六葉の釘隠しなど、凝った意匠に注目していただきたいです。

開館時間

午前9時～午後5時まで開館(無料)。
休館日は年末年始のみ。部屋の利用も可能です(有料)。

建築年代

主 屋：1760年(宝暦10年)

付属屋：1836年(天保9年)

※牧田家は屋号を「淀屋」と称し、町年寄や町目代などの町役人を務めた倉吉を代表する商家の一つ。大阪の豪商「淀屋」とつながりがあったとされています。付属屋が建てられたのは6代目仁右衛門50歳の年で、牧田家がもっとも繁栄した頃のものです。

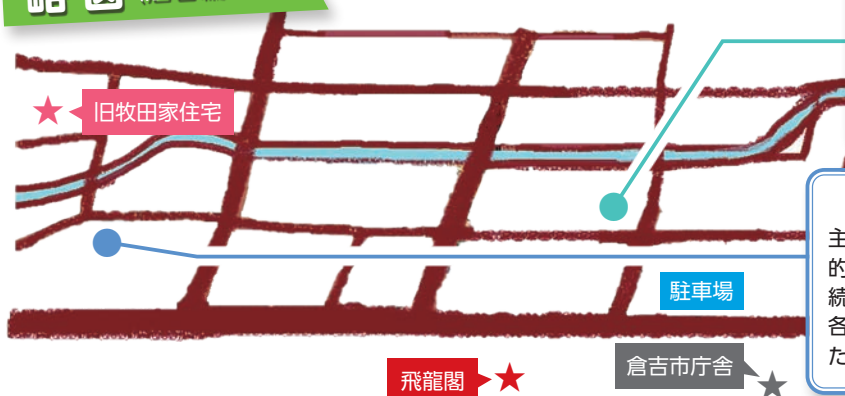
特徴(文化財登録のポイント)

旧牧田家住宅は主屋と西側に接する付属屋の2棟の建物で構成されます。主屋は倉吉の商家の中で現存する最古の町家建築で、柱など各材が大きく、素朴で豪壮な空間が特徴です。一方、付属屋は柱が全体的に細く、数寄屋風※の造りで、全体的にさっぱりとした上品な空間となっています。小屋組みは他にあまり例を見ない「垂木構造」で独特な形式です。

※数寄屋造りという住宅の建築様式を取り入れたもの。「数寄」とは和歌や茶の湯、生け花など風流を好むことであり、「数寄屋」は「好みに任せて作った家」といった意味がある。

略図(倉吉編のみ)

その他、くら用心、豊田家住宅も訪問予定でした。



くら用心

伝統的建造物群保存地区の火災跡地に倉吉の町家を復元した防災施設です。火災の教訓を風化させることなく、後の町づくりに活かしていくため、地区の防災拠点として建てられました。

豊田家住宅

主屋は1900年(明治33年)に建築され、倉吉の伝統的な町屋形式を保持しています。主屋と渡り廊下で接続する離れは1930年(昭和5年)に建築され、家財の各所に栄えていた時代を感じさせる昭和初期の熟達した和風の造詣を残しています。

倉吉市教育委員会文化財課 箕田さんより一言

倉吉には歴史的建造物だけでなく、史跡・庭園・仏像・石造物など他にも特徴的な文化財がたくさんあります。地域の文化財をじっくり見て歩くと、新たな発見があるかもしれません。

また、打吹公園や倉吉の町並みなどが写った、戦前の写真をお持ちの方はご提供ください。お待ちしております。

協力

倉吉市教育委員会文化財課

TEL 0858-22-4419

FAX 0858-22-2303

ご意見・ご感想、こんな情報も知りたい等の御希望もお聞かせください。

県立生涯学習センター

TEL 0857-21-2331

FAX 0857-21-2267